



学校評価だより

平成29年度 後期号

平成30年 3月16日

京都市立正親小学校

校長 辻元博子

学校評価アンケートへのご協力ありがとうございます。
後期のアンケート結果をもとに来年度の教育活動に生かしていきます。

保護者の皆様にご協力をいただいている「みんなで子育てアンケート」によるアンケート調査は、学校評価の大切な指標として皆様のご意見を本校教育に生かす取組を進めてまいりました。今年度も、7月の夏休み前と1月下旬の2回にわたってご協力をいただきました。後期のアンケート結果をもとに、継続発展すべきところ、改善すべきところを明らかにし、来年度の教育活動に生かしていきたいと思います。



児童アンケート結果より



「がんばれていること」や昨年度同時期、今年度前期との比較

アンケート項目は、「德育（豊かな心）」「知育（確かな学力）」「体育（健やかな体）」という、学校教育でつけたい力に沿った項目を設定しています。三つの力それぞれについて、年度の同時期、今年度前期と比較をしてどのような傾向があるのか、見ていきます。

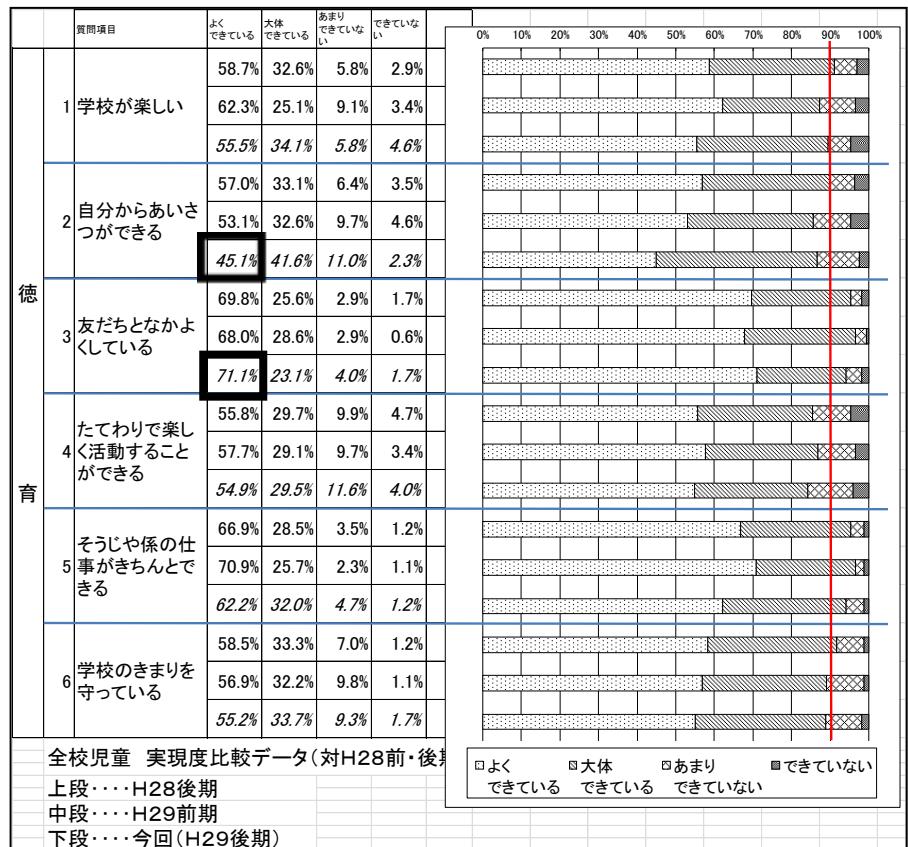
年度の初めの調査に比べ、後期の調査結果が全体的に低くなる傾向が見られます。自分をふり返る材料がたくさんあり、また、自分を見つめ直す見方が厳しくなる傾向は、今年度に限らずいつも見られる傾向です。

「德育（豊かな心）」では、前期よりも実現度が低くなっているものの、昨年度同時期と同じぐらいの結果となっています。

その中で、「友だちとなかよくしている」という項目では、「よくできている」と答えた児童が、前期よりも多くなっています。

一年間の活動を通して、友達とのつながりが深まっていくことは、学年単学級である本校にとって、大切なことです。

「自分からあいさつができる」という項目は、他の項目に比べて「よくできている」の低さが目に付きます。人とのつながりをもつ第一歩である「あいさつ」の大切



さについては、子どもたちが大切なものだと意識できるよう、ことあるごとに伝えていく必要があると思います。

「知育（確かな学力）」では、どの項目も実現度「よくできている」が低くなっています。中でも、「授業中、考えたことが発表できる」という項目では、「よくできている」と「大体できている」を合わせた割合が50%程度でした。クラスの約半数の児童が、授業中の発表活動が不十分であるとふり返っています。

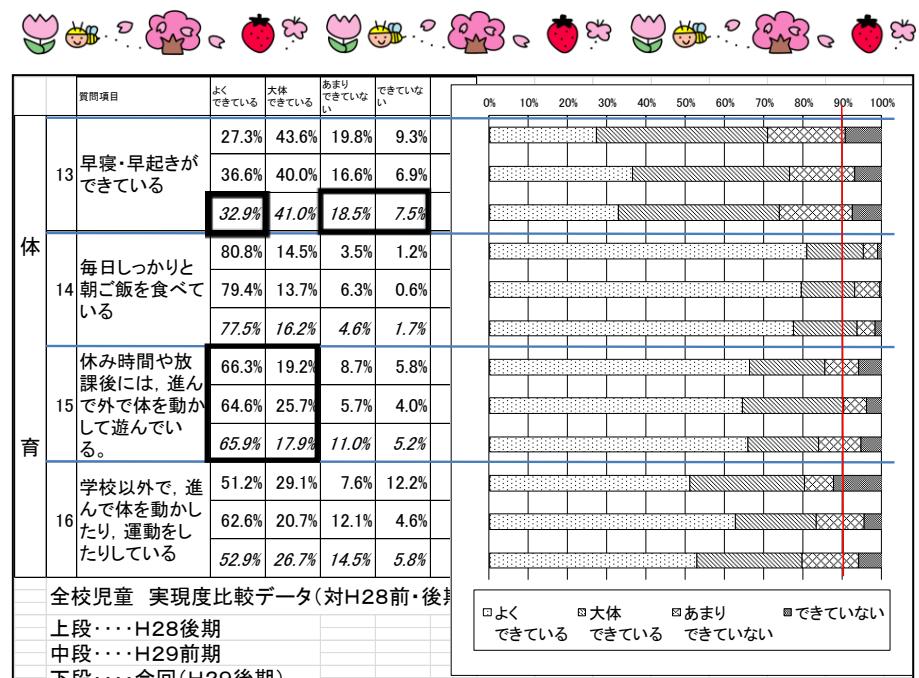
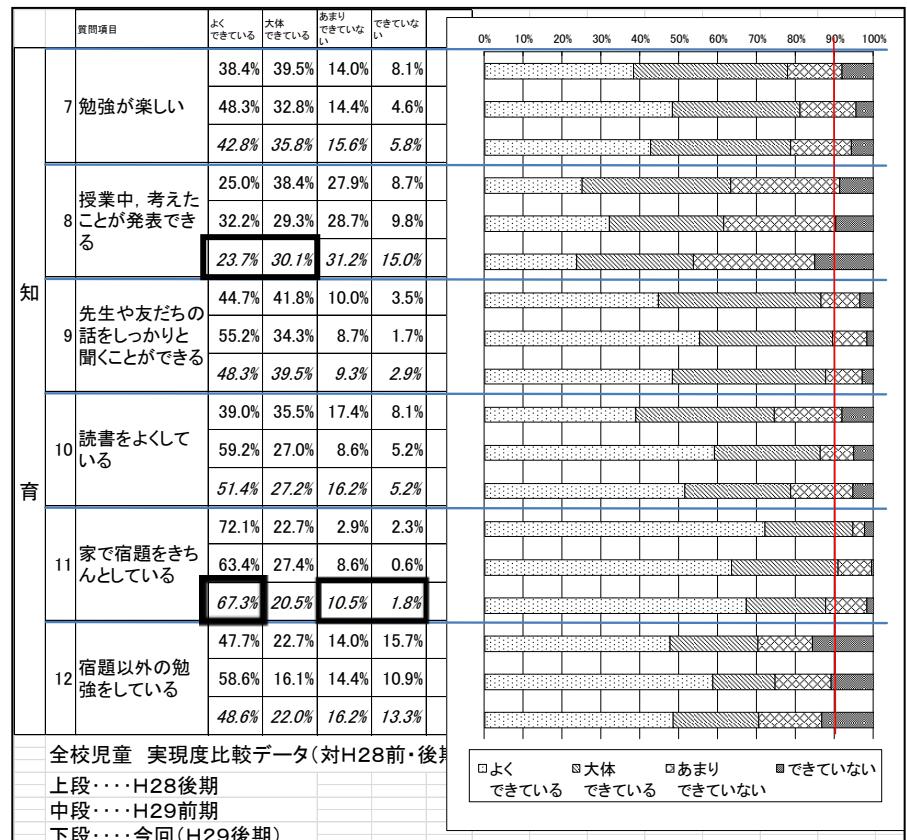
来年度は、より自分の考えを話し合いの中で発表できるようになる手立てについて考え、授業改善に努めたいと思います。

「家で宿題をきちんとしている」という項目については、前期よりも実現度が低くなる傾向の中で、「よくできる」の割合が高くなっています。しかし、「あまりできていない」「できていない」と答えた児童の割合は、前期よりも増えているため、二極化が見られるようです。各家庭での声かけなどの協力を得ながら、家庭学習の中で宿題をやり切ることを確実にし、基礎基本の学力の定着を進めていきたいと思います。

「体育（健やかな体）」では、これまでの傾向と同様の結果となりました。

「早寝・早起きができている」の項目では、実現度「よくできている」の割合が少ないことはもちろんですが、「あまりできていない」「できていない」の割合が多くなっています。4人に1人の児童が当たる事になります。充実した学校生活を送るためにも、十分な睡眠時間を確保する規則正しい生活を心がけていくことを働きかけていきたいと思います。

後期は、寒い季節のアンケート実施ではありますが、「休み時間や放課後には、進んで体を動かして遊んでいる」の実現度が、前期と同様の結果となっています。それは、日頃から運動場でたくさんの友だちと学年入り混じって遊ぶ子どもたちの様子を見てもよく分かります。この姿は、正親小学校が自慢できる子どもたちの素敵なもの一つです。



④ 三者(児童・保護者・教職員)の傾向を比較

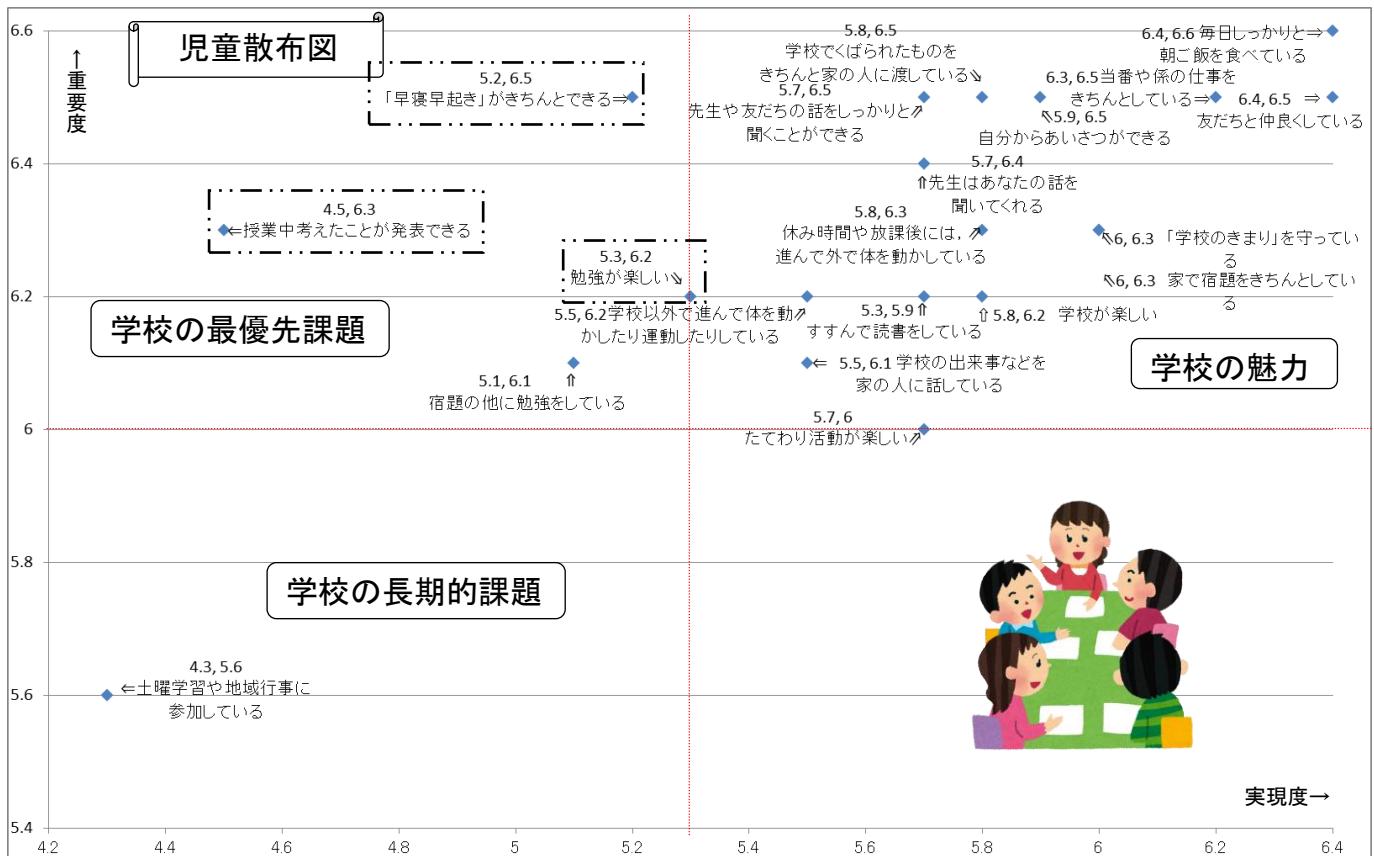
平成29年度後期 実現度 三者比較(「よく出来ている」の回答が多かったもの)

		児童	保護者	教職員
体	毎日しっかりと朝ご飯を食べている	①77.5%	①67.1%	②22.2%
徳	友だちとなかよくしている	②71.1%	⑥41.4%	④18.2%
知	家で宿題をきちんとしている	③67.3%	③46.1%	②22.2%
体	休み時間や放課後には、進んで外で体を動かして遊んでいる。	④65.9%	④44.1%	⑤11.1%
徳	そうじや係の仕事がきちんとできる	⑤62.2%	④44.1%	
他	学校でくばられたものをきちんと家の人にわたしている	⑥57.0%		
徳	学校が楽しい	⑦55.5%	②53.3%	

※○数字は、「よく出来ている」の回答が多かったものの順位

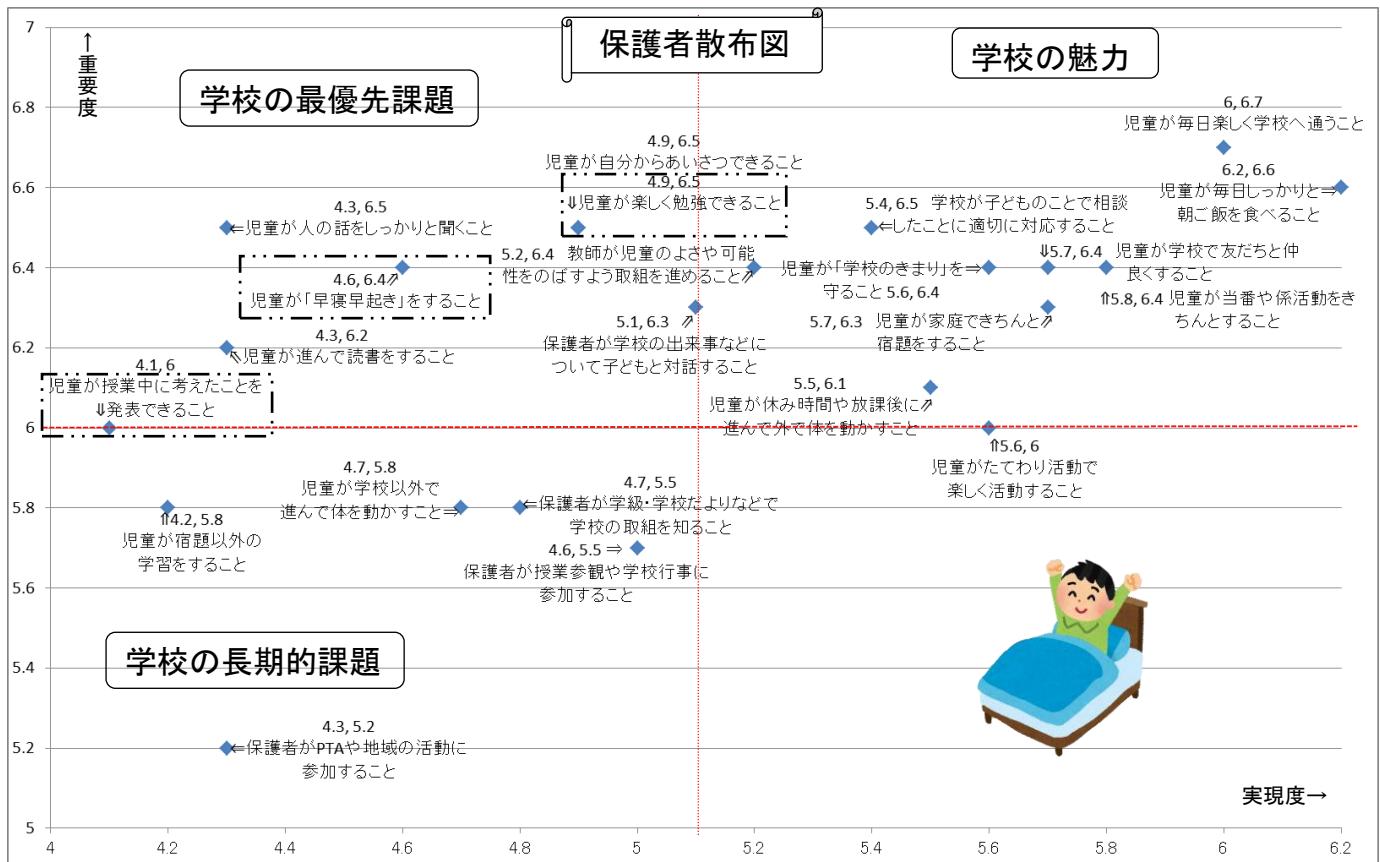
児童・保護者・教職員の三者ともに割合が上位になる項目が、前期に引き続き4項目ありました。そして、ここでも、「德育(豊かな心)」「体育(健やかな体)」に関する項目が多く、「知育(確かな学力)」に関する項目は、一つという結果になりました。さらに、その一つの項目も「家庭学習」についての項目でした。学校での学習活動についての充実度が高まるよう、「分かった!」と実感のもてる授業づくりに努めるとともに、たてわり活動をはじめとして、全校の子どもたちが友だちとのふれ合いの中で、豊かな心を育んでいけるよさをさらに充実させていきたいと思います。

④ 散布図(実現度と重要度の相関)を通して



アンケートでは、「実現度」(できているかどうか)だけではなく、同時に「重要度」(大切かどうか)も尋ねています。この結果を散布図に表すと次のような分析ができます。

- ◇「大切な上に、実現度も高い」……学校の魅力となりうる項目。
- ◇「大切なのに、実現度が低い」……学校の最優先課題となりうる項目。



「勉強が楽しい」「早寝早起きがきちんとできる」「授業中考えたことが発表できる」という項目については、望んでいるほど実現されていないことがあります。

いずれも、個別項目の分析でも課題となっていましたが、散布図からも児童・保護者双方の視点からも課題となることが明らかです。

また、「人の話をしっかりと聞くこと」や「進んで読書をすること」「自分からあいさつをすること」は、保護者の視点からは、課題となっていますが、児童自身は案外実現できているという結果になっています。「出来具合」に対して、大人の見方と子どもたちの見方にずれがあることと、保護者の視点には、子どもたちの家庭での様子が加味されるため、子どもたちが学校ではできていると思っていることが、家庭生活の中ではできていないということも考えられます。

とりもなおさず、学校生活と家庭・地域での生活を上手く連携・連動させることがとても重要なことが再確認できます。



今回のアンケート結果をもとに、話し合われた第3回学校運営協議会(2月21日実施)でも「どのような子どもを育てていけばよいか?」ということについて、多くの貴重なご意見をいただきました。

「人前で自分の思いを伝えられるような子」「大きな集団の中でも自分の力を發揮できる子」「けじめや規範意識をしっかりともった子」「考えて行動できる子」「将来の夢(目標)をもち、それに向かってがんばれる子」「誰からも好かれる素直な子」

小規模で、1年生に入学してから卒業まで、人間関係が固定化しやすい本校の特徴がうかがえるあるべき子どもたちの姿を具体的にたくさん考えていただきました。

今回の話し合いでのご意見をしっかりと吟味して、学校教育目標や学校教育でめざす子ども像を設定し、新年度の教育活動を進めていきたいと思います。ありがとうございました。